春闘要求6,000円を勝ちとろう!!

荒尾市長選をかちとり
次はいよいよ春闘だ!!

われわれの基本方針

三池労仂者としての「春斗総路線」は、すでにみんなで討議中であり、本紙・新年号でも紹介されている。その大綱は、次のとおり

(1)荒尾市長選挙に絶対勝利する。
(2)三井鉱山のあらゆる不当の追及
(3)命を守る負傷ゼロ運動の徹底。
(4)ガス中毒患者と遺族を守り抜く
(5)第二組合員対策をふかめる。
(6)そして「大巾賃上げ」だ!!

炭労の要求と方針はどうか

炭労中斗委員会が提案している春斗方針の大綱は次のとおり。

一、賃金引上げについて

(1)基準内賃金引き上げ
本人給一方当り平均二四〇円
内、一律加給　二〇〇円
修正給　四〇円
(2)家族手当引き上げ
配偶者一、五〇〇円…現行四〇〇円
その他　八〇〇円…現行四〇〇円
(3)労仂時間は拘束八時間（現行）
(4)基準外割増率三〇％（現行）
(5)時間短縮の一かんとして勤労感謝の日を有給休暇とする
(6)この原案は、要するに月額六、〇〇〇円プラス家族手当の引き上げという要求であるが、われわれの生活実態からみて当然だ

二、職場要求の基本はどうか。
(1)炭労の統一要求の基本として
(イ)保安の確保
(ロ)必要人員の確保
(ハ)長時間労仂の規制
(2)各組合の職場要求
それぞれ大衆討議で決定する。

三、たたかいの組み方

人間らしい生活ができる要求を大衆討議で決定し、前段斗争をつみ上げ、長期ストを構える、
(1)地区研究集会を開催する。
九州は、一月一八日から二〇日までとし、執行部・組合員の出席により地区としての意志統一をはかる（三池は組合員代表一三名をふくめて計二〇名）。
(2)二月末ごろの第43回臨時大会において、炭労春斗全方針を確立し、ただちに行動に入る。

反合理化斗争との結合

三池斗争收拾いらい炭労各支部は、資本の合理化攻撃によりそれぞれ苦斗してきた。

したがって、春斗・賃上げをたたかうためにも、職場での反合理化斗争から頑強にスタートしなければならない。

賃上げについても、たとえば物価高・公共料金引き上げに対処するということにとどまらず、合理化強行で搾取され、労仂強化で能率が上がっている事実に対する労仂者の当然な要求としてたたかう

三池労組としての「春斗方針」も、前掲のとおり反合理化斗争をふくめた「総反撃」であり、創意・工夫をこらした果敢なストライキで要求貫徹をはかるが、とくに荒尾市長選で久保田武己候補の勝利を絶対にかちとり、その勢いで春斗路線に突入する。

第二組合員に訴えよう

(1)第二組合幹部は、賃金要求についてどう出るだろうか。
昨年末の期末手当で、われわれの「五万円」に対し、全炭鉱最大の三池第二組合は「四万円」の要求を出し、三万九千円で全体の足を引っぱるという御用性をぼくろ経済斗争もサボっていることを叩かれたばかりである
(2)しかも、三井鉱山は三九年度上期決算で「三億五千万円」の黒字を出し、いよいよ再建の第一歩に入った、と誇らしげに宣伝している。
(3)第二組合が加盟している全日本労仂総同盟（略称・同盟）も、初めて「賃金白書」を作成したが、生産性も上がったからと、四、〇〇〇円以上七、〇〇〇円の大巾賃上げを決定し「ストも辞せず」とうたっている。
(4)そこでわれわれは、同盟の要求を明らかにし、第二組合員諸君に対して「賃上げ要求」について仂らきかけなければならない
(5)放置しておくと、第二組合幹部は「四、五〇〇円」くらいしか要求しないかもわからない。
一人ひとりが、第二組合員諸君に仂らきかけることが急務だ。

主婦会との結束を強めよう

ボロを出したまでだ、といってしまえばそれまでだが、ちょうど第二組合幹部同様に荒尾の古閑市長も、三井独占に奉仕し、市民に大損害を与えた。

大牟田でも、失対の仲間や三池の離職者が大半である緊就の仲間たちは、円仏市長の反動政治の結果、いまだに年末手当も支給されていない。

新産都市で独占資本に奉仕する市政は、公害だけでなく、われわれの生活を苦しめている。

これらの失政のしわよせや物価値上げや教育費増額などは、主婦たちを憤激させ、苦しませていることはいうまでもない。

〃かせげどもかせげども
わがくらし楽にならざり
き〃と昔の人の様にあき
らめてなどいられぬ生活
のきびしさ。
どうしても六、〇〇〇円
はかちとらねばならぬ春
斗である。

うめだ・てつじ画

発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 3033番 8100
編集兼発行人　澁田紀生

友だちというものは不幸なときにわかる。負けた軍隊はよくまなぶものである。
（レーニン・共産主義における「左翼」小児病）

組合日誌
（1　月）

7日　宮浦・三川坑内二番方時限スト。坑内三番方方別スト。四山坑内一番方時限スト。

9日　四山坑内三番方方別スト。

14日　三川坑内二番方時限スト。四山・三川坑内三番方方別スト。

15日　四山坑内一番、常一番、坑外全員時限スト。宮浦坑内常一、二番方、坑外全員時限スト。坑内三番方方別スト。

16日　本所時限スト。宮浦坑内二番方時限スト三番方方別スト。

「三池にまなぶ会」
全国の闘う仲間と交流

労仂大学雑誌「まなぶ」では今年も一月二十三日から二十五日まで三池労仂者と斗いの経験交流をするよびかけを全国の活動家に実施したところ、約二〇〇名の参加者が三池に来ることになりました

参加者の中には北は青森、山形岩手の人をはじめ大阪、中国の人が多く、そのため個人で貯金をしたり、期末一時金を割いたり、職場の人からカンパを集めて三池に学びたいという意欲のもとで来組されるわけで、単なる同情、物見ではないことがうかがわれます。

それを迎えるわれわれは、三池の火を拡げるためには、当面の春斗を成功させるためにも、オルグの人々に対して非常に困難な状況で斗う同志として「君たちと一緒に頑張ろう」という意志統一出来るように、地域分会を中心にして取り組みたい。

なお期日は、一月二十三日より二十五日まで。

主張　久保田市長実現のために
―荒尾市政浄化・市民の政治を―

荒尾市長選挙は、いよいよ二月七日（日曜日）投票と決定されたが、選挙戦はすでに事実上は「終盤戦」に突入しているといわれているほどに激化している。

この選挙の重大な意義

今回の荒尾市長選挙は、雨もり市庁舎建設・でたらめなし尿処理場問題など、汚職臭ぷんぷんたる不潔市政の浄化と、鉱産税年間一、〇〇〇万円以上の値下げや、坪一〇〇円の旭ガ丘団地敷地をそっくり一〇万坪も原価で三井に返すなど、三井奉仕の悪政を打破し、市民の手による「民主的市政の確立」が、まず第一の目的である。

さらに進んで、地域の組織づくりを強化して、農・商・漁民との相互理解と提携をはかり、三井鉱山の独善支配に対決する三池斗争を拡大する、という重大な意義をもつことを忘れてはならない。

われわれは「若さと熱情で明るい市政確立」という正しい主張に必勝の確信をもつものである。

校区選対を強化しよう

永年の荒地評指導による校区連協は、この選挙戦を通じて、実際にうごく校区連協に完成しなければならない。

われわれの反撃効果が強大であればあるほど、三井鉱山など保守反動グループの金・権的切り崩しはそれこそ必死にかけられることはまちがいない。

三池労組員は、先頭に立って名実ともに、不正には抵抗できる「たたかう校区連協」の確立に全力をあげよう。

執行部も組合員も家族も一丸で

久保田完勝をかどでに、春斗・三池反撃・阿蘇根選斗から夏期手当へと、われわれの進撃コースはしかれている。荒尾市長選挙は、たたかいの重要な一かんである。

執行部はこれに全力を集中し本部・支部役員はそれぞれ地域を担当し、組合員の先頭に立つ

組合員・家族一人ひとりは、足で口で、あらゆる時と所をとらえて、まっしぐらに突っ込もう。

労仂者・市民のたたかいは、まさに共通していることを確認し合い、歴史的な勝利をかち取ろう。

自から内職にも出なければ食えない主婦会員との結束を、いよいよ強化し、家族ぐるみの春斗を緊急に確立しよう。

たたかいに確信をもとう

総評・賃金白書は、次表のように、この一〇年間の春斗実績を明らかにしている。

労仂者は抵抗し、たたかわなければ生活は守れないのだ。

春斗10年の賃上げ実績
※（昇給もふくむ）

	民間全産業	公労協
昭和30年	840円	600円
31	1,314	700
32	1,579	1,900
33	1,370	890
34	1,454	950
35	2,038	1,650
36	3,126	2,850
37	3,052	2,350
38	2,186	2,400
39	3,454	3,347
合計	20,413	17,637